

第12回

[日 時] 平成30年11月17日（土）18:30～20:30

[場 所] 百俵館 石巻市小船越字山畑343-1

[テーマ] 世界に誇れる石巻地域にしよう～発信！未来へ～

[使用したテキスト] 『耕人』第7-7号.pdf（塾長から塾生へのメッセージ）

[活動内容詳細]

●挨拶（木村塾長）

耕人塾で取り組んできたことを、普段の生活の中で生かすことが大切だということをお話されました。また、『耕人』第7-7号に掲載されていることに触れ、今後も「人間力」の育成と「あいさつ・清掃・ゴミ拾い」の輪を広げ、「世界に誇れる石巻地域」にしていくために「念ずれば花ひらく」の言葉を支えに、耕人塾として実践活動を継続していきたいことを塾生に伝えました。



●実践発表（一人3分以内）

前回のプロジェクト「I」で、林 貴俊氏（石巻こけし作家）、斉藤誠太郎氏（一般社団法人ISHINOMAKI 2.0理事）、高橋 由季氏（一般社団法人フィッシャーマン・ジャパン事務局）の3人の講師の方の生き方に触れ、塾生一人一人が前回から1か月の間に実践したことや気付いたことなどを、各班に分かれて発表しました。





< 塾生の実践した主な内容 >

- 家の近くの落ち葉拾いを行った。大変だったが、近所の人に「ありがとう」と言われて達成感を味わった。これからも小さなことを積み重ねていきたい。
- ISHINOMAKI2.0とコラボして中高生向けの石巻スイーツマップの企画書を作った。
- 2週間、フィジー共和国に行ってきた。語学力を高め、グローバルに活躍していきたい。
- 市民合唱祭に参加し、人と人とのつながりを学んだ。
- 川開き祭りでの実践活動を受けて、公園のゴミ拾いを行った。ペットボトルなどをたくさん拾った。道路の脇などにゴミがたくさん落ちていることをあらためて感じた。
- 石巻の名所調べをした。やはり石巻の今後を考えるうえで、石巻のことをよく知る必要があると感じたため。自分でも知らない名所がたくさんあることが分かった。

■協議 I

「20年後に住みたい石巻」について、3人1グループ（塾生2名、指導委員1名）で、感じたこと、思っていることを話したりして、意見交換をしました。



中学生と高校生と指導委員が意見を聴き合いながら議論を深めました。

指導委員もグループに入り、和やかな雰囲気での交流に参加しました。

<意見交流の一部>

- 様々なジャンルのお店があればいい。
- 川開き祭りを残す。石巻から離れた人も川開きがあるから帰省してくる。
 - ・ 祭りのエリアを駅周辺ではなくもっと広げる。
 - ・ 有名人を呼ぶ。
 - ・ 少子高齢化が進んでいるので、学校と地域が協力して参加する。
- 川開き祭り以外にも、地域の人たちが活躍できるイベントが必要
- どんな石巻がいい？（にぎやかな街、人が集まれる街、小さい子が住みやすい街、都会っぽくなくていい、人と人のつながりやあたたかさのある街）
- 地域のゴミ拾いは、授業の一環としてや部活動ごと、また部活動の大会後に全員で会場をゴミ拾いするなどすれば、より多くの力でゴミ拾いを行うことができる。

■協議Ⅱ

「20年後に住みたい石巻」について、班ごとに意見交換し、ホワイトボードにまとめました。

塾生と指導委員が深い議論をしながら、グループごとにホワイトボードにまとめました。

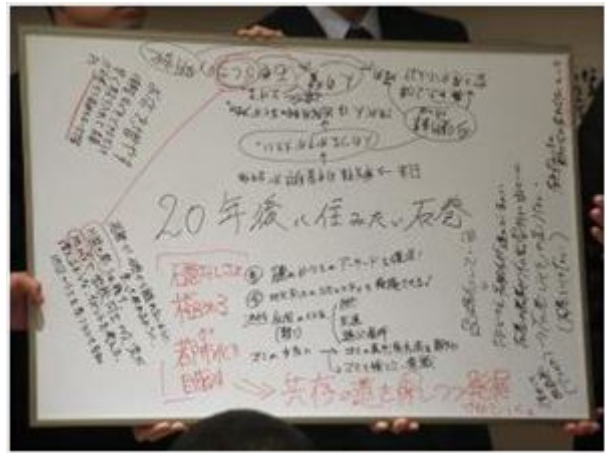
■各班の発表

<1班>



- 駅前景色を残したい
- 蛇田イオンなど新しい建物と古い家屋の共存
- 空気がきれい ゴミがない みどりがいっぱい 住民の意識が高い
⇒そのためにできること
- ①交流会 異年齢交流：いろいろな世代の人と。今まで知らなかった石巻を知る。
- ②スポーツ eスポーツなども...
- ③お祭り 耕人塾で企画もできるのでは？いろいろな人が集まる場。

<2班>



- アーケードの復活やこれまでの石巻の文化（川開き祭り、地域の祭りや人とのつながりなど）を残すこと、さらには石巻らしさって何かを考えていかなければならない。
- 地域の小さな祭りもどんどん宣伝する。
- 石巻では物足りなさを感じるために若者が都市部に流出するため、過疎化が進んでいる。
- 仙台のように自然がありつつもお店や遊ぶ場があるような環境づくり
- 交通網（アクセス）の整備
- ゴミの再利用方法や捨てないという意識を高めていくことも必要

以上の話合いから、

「石巻らしさを極めるのか」それとも「都市化を目指すのか」ということではなく、共存の道を探しつつ石巻を発展させていくという考えにまとまった。

<3班>



- 自然・交通・遊ぶ施設などのバランス等で仙台と同じを目指すのではなく、違いがあり「宮城＝石巻」思われる街。
- ゴミを自主的に捨てたくなるような、エコ意識が高い街。
(例：ゴミ箱の「インスタ映え」など、ゴミ箱自体を観光化する。)
- 名産である魚をアピールできるテーマパークを作る。
- 石巻をアピールするプロジェクションマッピングを作り、石巻の人は地元で誇りが持て、観光客も多く訪れる人に溢れた街。

■講評（前回の講師の方から）

前回の第11回耕人塾で講師をしていただいた林 貴俊氏（石巻こけし作家）、斉藤誠太郎氏（一般社団法人ISHINOMAKI 2.0理事）からは、20年後に住みたい石巻にするために様々な提案がなされましたが、どのようにしたら実現できるようになるかさらに検討して頑張りたいと激励されました。

■講評（横江運営委員長）

塾生一人一人の取組を横糸とするならば、他の塾生との関わり合いが縦糸になり、その織りなす布が20年後に住みたい石巻の姿としてあるのではないのでしょうか。今回は、次年度に繋がる貴重な活動でした。また、「20年後に私たちが住みたい石巻」をテーマにした石巻市政策コンテストで最優秀賞に輝いた石巻専修大学の取組も紹介され、プロジェクトIの取組にとっても大変参考になることを伝えました。

メニュー

ホーム



耕人塾の活動



令和2年度の活動



令和元年度の活動



平成30年度の活動



第13回「耕人塾」第7期閉塾式

第12回

第11回

第10回

第9回

第7-8回 宿泊研修

第6回

第5回

第4回

第3回

第2回

第1回

平成29年度の活動



平成28年度の活動



平成27年度の活動



平成26年度の活動



平成25年度の活動



平成24年度の活動

報道・受賞